

平成30年度

熊本中央高等学校

特
奨
専

待
学
願

入学者選抜学力検査問題

国 語

時 間 50分

平成30年1月23日実施

注 意

1. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
2. チャイムに従って、開始及び終了しなさい。
3. 終了のチャイムが鳴ったら、問題を机上の右に、
解答用紙を左に置いて待ちなさい。
4. 試験監督に用がある場合は、黙って挙手しなさい。

—
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

科学は、自然の仕組みとはたらきを客観的にとらえて、^アキジユツする一つの方法であり、技術は、科学の成果を私たちの生活に応用し、実用化する術とみることができます。

ここで、私たちがいう「科学」とは、ヨーロッパで生まれた近代科学を指します。近代科学の考え方の^イトクチョウは、人間と自然は別個の存在であり、自然は分解できる要素から成り立っていて、それらの要素は自然の法則にしたがって^ウキカイ的に運動するというものです。

ここから、人間が自然を理解するとは、その客観的な自然法則を^イ発見することであり、その法則を利用すれば、自然を支配することができるという考え方が生まれてきます。

^{II}こうした自然（世界）の見方は、自然と人間を分けることのできない一体のものとしてみる東洋的な見方とは、正反対といってもよいものです。人間が自然の一部であるならば、自然の^エ破壊は **A** 自らの破壊でもあるからです。この二つの見方の^{III}どちらが正しいかをめぐって、昔から議論がされてきました。

近代科学の根底には、**B** は人類の生存をおびやかす以外の何物でもなく、いかに自然を手なずけコントロールするかが、人類の **C** であるという考えがあります。

これに対して、^②環境問題は、自然の支配という考えに^①たった近代科学から必然的に^③生まれてきたものであり、根本的に解決するには、自然と人間が一体になった共生関係という東洋的な^④とらえ方によって、社会の意識を変えていくことが必要であるという考え方が他方にあります。

「客観的」とは、だれがみても同じで、動かすことのできない事実として、人びとに受け入れられるもの、という意味です。そして、「客観的」な科学や技術と、人びとのさまざまな判断や D 的な行動によってつくられている人間社会とは、ときにムジ^オュンをはらんだ関係にあります。

科学（自然法則）を無視した技術は、明らかに E 。また、社会の必要と経済性を無視した技術の開発は F 。これを単純にいうと、技術は科学と社会の間において、両方の橋渡しをしていると考えられます。

（後藤則行『中・高校生のためのやさしい地球温暖化入門』より）

問一 二重傍線部ア、イのカタカナは漢字に、漢字には読みをひらがなで答えなさい。

問二 空欄 A・B は漢字二字が入ります。文章の中から適語をそれぞれ抜き出して答えなさい。

問三 傍線部①「近代科学」の見方を本文中から十六字、これと正反対の見方を二十六字で、それぞれ「こと」に続くように本文中から抜き出して答えなさい。

問四 空欄 C・D に入る適語を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア 中立 イ 普遍 ウ 主観 エ 依存 オ 進歩
カ 客観 キ 対立 ク 後退

問五 傍線部②「環境問題」を解決する考え方を「こと」に続くように三十字以内で答えなさい。

問六 空欄E・Fにはどちらが入りますか。記号で答えなさい。

E ① 実現できます

② 実現できません

F ① 意味があります

② 意味がありません

問七 科学と技術について述べた文である。空欄に適語を本文中から抜き出して答えなさい。

科学は(1)□□を(2)□□にとらえ、技術は(3)□□の成果を生活に(4)□□□□する。

問八 波線部「必然」の対義語を次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 偶然

イ 突然

ウ 自然

エ 抽象

オ 曖昧あいまい

問九 傍線部I～Vの品詞名を漢字で答えなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「いいねえ、おばさん。やっぱり御坂は、いいよ。自分のうちに帰って来たような気さえるのだ」

夕食後、おかみさんと、娘さんと、交る交る、私の肩をたたいてくれる。おかみさんの拳は固く、鋭い。娘さんのこぶしは柔かく、あまり効きめがない。もっと強く、もっと強くと私に言われて、娘さんは薪を持ち出し、それをもって私の肩をとんとん叩いた。それ程にしてもらわなければ、肩の凝りがとれないほど、私は甲府で緊張し、一心に努めたのである。

甲府へ行って来て、二、三日、流石に私はぼんやりして、仕事する気も起らず、机のまえに坐って、とりとめのない楽書をしながら、バットを七箱も八箱も吸い、また寝ころんで、金剛石を磨かずば、というシヨウカを、繰り返し繰り返し歌ってみたりしているばかりで、小説は、一枚も書きすすめることができなかった。

「お客さん。甲府へ行ったら、わるくなったわね」

朝、私が机に頬杖つき、**I** をつぶって、さまざまのことを考えていたら、私のハイゴで、床の間ふきながら、十五の娘さんは、しんからいまいますように、多少、**A** 口調で、そう言った。私は、振りむきもせず、

「そうかね。わるくなったかね」

娘さんは、拭きソウジの手を休めず、

「ああ、わるくなった。この二、三日、ちっとも勉強すすまないじゃないの。あたしは毎朝、お客さんの書き散らしたゲンコウ用紙、番号順にそろえるのが、とつても、**B**。たくさんお書きになって居れば、**C**。ゆうべ

もあたし、二階へそっと様子を見に来たの、知ってる？ お客さん、ふとん Ⅱ からかぶって、寝てたじゃないか

私は、ありがたい事だと思った。大袈裟おおげさな言いかたをすれば、これは人間の生き抜く努力に対しての、純粋な声援である。なんの報酬も考えていない。私は、娘さんを、美しいと思った。

（『富岳百景』より）

注1 御坂……………山梨県御坂峠

注2 バット……………煙草の銘柄の略

注3 金剛石を磨かずば……………明治皇太后の和歌をもとにした歌

問一 二重傍線部ア〜オのカタカナは漢字に、漢字には読みをひらがなで答えなさい。

問二 傍線部①「私の肩をたたいてくれる」とありますが、私の肩が凝った理由はなんですか。「から」に続くように本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②「拳」③「こぶし」と同じ言葉が漢字とひらがなで表記しているのは、どんなことを表現するためですか。それぞれが対照的になるように、本文中よりそれぞれ漢字一字を抜き出して答えなさい。

問四 傍線部④「わるくなったわね」とありますが、「娘さん」がこう言ったのはなぜですか。二十字以内で説明しなさい。

問五 空欄A～Cに入る適語を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア 苦しい イ 美しい ウ たのしい エ 悲しい オ とげとげしい
カ うれしい

問六 空欄I・IIには、体の名称が入ります。漢字一字でそれぞれ答えなさい。

問七 傍線部⑤「私は、娘さんを、美しいと思った」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問八 この作品の作者は『走れメロス』を書いた人物です。名前を答えなさい。

問九 波線部「机のまえに坐って、とりとめのない楽書（うたがき）をしながら」とありますが、このような状態で鎌倉時代に机の前に坐って頭に浮かんでくる取り留めもないことを書き綴った作品があります。(1)作品名を語群の中から記号で選んで、(2)作者名を答えなさい。

- ア 枕草子 イ 源氏物語 ウ 徒然草 エ 宇治拾遺物語 オ 方丈記

三

次の歌を読んで、後の問いに答えなさい。

(1) 不^こ来^ず方^{かた}のお城の草に寝ころびて

空に吸はれし

十五の心

(2) 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあ^①た^たか^さ

(3) 来^きしか^かた^たや^や馬^{あし}醉^{しび}木^び咲^さく野^のの日^ひのひかり

(4) 白^{はく}牡丹^{ぼたん}といふといへども紅^{こう}ほのか

(5) のど赤^{あか}き玄^{つば}鳥^{くらめ}ふたつ屋^{はり}梁^りに^③あ^あて^て足^{たら}乳^ち根^ねの母^はは死^にに^にたま^まふ^ふなり

(6) 糸^へ瓜^{ちまき}咲^{さい}て痰^{たん}のつ^つまり^{まり}し^し仏^{ぶつ}かな

問一 これらの歌は内容から二つに分けることができます。それを何といいますが、それぞれ漢字二字で答え、その内容の歌を上番号で二つに分けなさい。

問二 (1)の歌に用いられている表現技法を次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 分かち書き イ 寄せ書き ウ 三行書き エ 真名書き

問三 傍線部①「あたたかさ」とありますが、人の何の「あたたかさ」のことを言っているのですか。漢字一字で答えなさい。

問四 傍線部②「や」と同じ修辭技法が用いられている歌はどれですか。上の番号で答えなさい。

問五 (4)の歌の批評として次の中から適切なものを選んで、記号で答えなさい。

ア じっくり見ると、わずかに紅が混じっていて、良さが失われる。

イ かすかな紅色に白牡丹がいつそう引き立つ。

ウ 白牡丹なのに、紅が混じっており風情をなくす。

エ 白牡丹なのに、紅色をしていて魅力がある。

問六 傍線部③「ゐ」を現代仮名づかいに直しなさい。

問七 (5)の歌の中から「枕詞」を抜き出しなさい。

問八 (5)の歌では、二羽の「のど赤き玄鳥」と臨終の「母」を対照することで、どのような効果が上がっていますか。

次の中から適切なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 生きているつばめと死んでいく母とを対比させることで、作者の悲しみを強調させる効果。

イ のどの赤いつばめによって母の死を不気味なものにする効果。

ウ 二羽のつばめのように作者と母の親子関係の絆の強さを表す効果。

エ つばめがじっとして母の亡くなる様子を見守っている効果。

問九 (6)の歌は、I誰の、IIどのような状態を読んだものですか。次の中から適切なものを選んで、それぞれ記号で

答えなさい。

I ア 家族 イ 死者 ウ 作者 エ 病人

II ア 臨終 イ 病状 ウ 病苦 エ 安住

問十 次の作者の歌はどれですか。上の記号で答えなさい。

ア 正岡子規 イ 石川啄木 ウ 俵万智 エ 斎藤茂吉

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

山形領に立石寺（注2）といふ山寺あり。慈覚大師（注3）の開基（注4）にして、ことに清閑の地なり。一見すべきよし、人々の勧むるに

よりて、尾花沢（注5）よりとつて返し、その間七里ばかりなり。日（注6）いまだ暮れず。麓（注7）の坊（注8）に宿借り置きて、山上の堂に登る。

岩（注9）に巖（注10）を重ねて山とし、松柏（注11）年旧り、土石老いて、苔滑らかに、岩上の院々扉を閉ちて、物の音聞こえず。岸を巡り、

岩（注12）を這（注13）ひて、仏閣（注14）を拜し、佳景（注15）寂寞（注16）として心澄みゆくのみおぼゆ。

閑かさや岩にしみ入る蟬の声

注1 山形領……………山形藩の領内

注2 立石寺……………今の山形市山寺にある天台宗

注3 慈覚大師……………天台宗の高僧

注4 開基……………寺院また宗派を創立すること

注5 尾花沢……………今の山形県尾花沢市

注6 坊……………宿坊

注7 松柏……………松や檜

注8 佳景……………美しい景色

注9 寂寞として……………静まり返って

問一 二重傍線部ア・イを現代仮名づかいに直しなさい。

問二 作者が「立石寺」に行ったのはなぜですか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

問三 「清閑」な立石寺についての具体的な描写はどこから始まりますか。初めの五文字を抜き出しなさい。

問四 傍線部①「日いまだ暮れず」・②「仏閣を拜し」を口語訳しなさい。

問五 歌について、後の問いに答えなさい。

(1) I季語とII季節を答えなさい。

(2) 傍線部③「や」を何と言いますか。修辞技法を答えなさい。

(3) 何句切れの歌ですか。答えなさい。

(4) この歌の解釈として最も適当なものを、次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 静かな山里のなかで、蟬の声だけが回りに響いている。

イ 蟬の声までが岩に吸い込まれ、辺りは何の物音もしないとても静かな世界である。

ウ 岩さえもが、この静けさの中で蟬の声にしみじみと聞き入っているようである。

エ 辺りが静まり返っている山の中で、蟬の声だけが岩にしみとおるように聞こえている。

問六 作者はこの地に来てどのような気持ちになっていますか。本文中より十字で抜き出しなさい。

問七 この文章は、「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。」で始まる作品の一部です。I作品名・

II作者名・III作品のジャンルを答えなさい。

| | |
|------|--|
| 科 | |
| 受験番号 | |
| 氏名 | |

| |
|----|
| 得点 |
| |

一

| | | | | | | |
|----|-----------|----|----|----|----|----|
| 問九 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| I | E | | C | | A | ア |
| | | | | | | |
| | F | | D | | B | |
| II | 問七 (1) | | | | | イ |
| | | | こと | | | |
| | (2) | | | | | ウ |
| | | | こと | | | |
| | (3) | | | | | エ |
| IV | | | | | | |
| | (4) | | | | | |
| V | | | | | | オ |
| | 問八 | | | | | |

二

| | | | | | | |
|-----------|----|---------|----|----|----|----|
| 問八 | 問七 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| | | A | | ② | | ア |
| | | | | | | |
| | | B | | ③ | | |
| | | | | | | |
| | | C | | | | イ |
| | | | | | | |
| 問九 (1) | | 問六 I | | | | ウ |
| | | | | | | |
| (2) | | II | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | エ |
| | | | | | | |
| | | | | | | オ |

三

| | | |
|---------|----|----|
| 問八 | 問二 | 問一 |
| | | 内容 |
| | | |
| 問九 I | 問三 | |
| | | 番号 |
| II | 問四 | |
| | | |
| 問十 ア | 問五 | |
| | | 内容 |
| イ | 問六 | |
| | | |
| ウ | | 番号 |
| | 問七 | |
| エ | | |

四

| | | | | | | |
|-----|----|----------|----|----|----|----|
| 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 |
| I | | (1) I | ① | | | ア |
| | | | | | | |
| | | II | | | | |
| II | | | | | | イ |
| | | (2) | | | | |
| | | | ② | | | |
| | | (3) | | | | |
| III | | | | | | |
| | | (4) | | | | |